

1991.01.26

整理技術研究グループ1月例会
三浦 整 (大阪女子大学)
北 克一 (摂南大学)
前川理女 (大阪芸術大学)

B Uにおける典拠コントロールについて
-NACSIS-CATを例として-

目録レコードの機能

- 「著作」(Work)* に対するアクセスポイントの提供
- 資料(Item)の書誌記述
- 蔵書の所蔵リスト

参考

*1書誌単位と物理単位

NCR1987年版(抜粋)

1.9.0.2(書誌単位) 一つの書誌レベルに属する、固有のタイトルから始まる一連の書誌的事項の集合が書誌単位である。...

ア) 基礎書誌単位

基礎書誌単位(以下基礎単位とする)は基礎書誌レベル(以下基礎レベルとする)の書誌単位でつぎのものがある

(1)単行書誌単位

単行書誌単位(以下単行単位とする)は基礎レベルの書誌単位で、単行資料の本タイトルから始まる一連の書誌的事項の集合である。

(2)逐次刊行書誌単位

イ) 集合書誌単位

集合書誌単位(以下集合単位とする)は、集合書誌レベル(以下集合レベルとする)の書誌単位で、セットものまたは、上位レベルの逐次刊行物の本タイトルから始まる一連の書誌的事項の集合である。書誌的記録において、複数の集合単位が存在することがある。

ウ) 構成書誌単位

構成書誌単位(以下構成単位とする)は、構成書誌レベル(以下構成レベルとする)の書誌単位で、構成部分の本タイトルから始まる一連の書誌的事項の集合である。

1.10 物理単位

1.10.0 通則

基礎単位または集合単位を分割した形態的に独立した部分の1点ずつを記述する単位を物理単位とし、物理単位を記述の本体とする書誌的記録を物理レベルの記録とする。

*2「著作」と書誌単位と物理単位

「著作」のタイトルは、書誌単位の「固有のタイトル」とは別のものである。

1つの書誌単位に複数の「著作」が含まれることがあるし、1つの「著作」が複数の書誌単位に分かれることがある。

*3NACSIS-CATにおける書誌構造概念と書誌レコードの作成単位(資料1-1)

*4目録情報構造の概念図/音楽目録情報構造の概念図(資料1-2)

*5資料(Item)間の関係(例示)

- 年代的关系(chronological relationship)

- ある逐次刊行物とその変遷前・後誌との関係のような、資料間の時間軸の関係
- 水平的関係(horizontal relationship)
 - ある資料の別言語、別形態、別媒体等の複数の版の間の関係
- 垂直的關係(vertical relationship)
 - シリーズと個々の資料、単行書誌単位と構成書誌単位、雑誌とその中の論文のような、全体一部分という階層的関係

典拠コントロールとは

- アクセスポイントの統一的管理機能(Supporting function)
- 同一のアクセスポイントを持つものを捜し出す機能(Finding function)
- 同一のアクセスポイントを持つものを集める機能(Gathering function)
- * The ALA Glossary of Library and Information Science, c1983
 authority control
 The method by which the authoritative forms of names, subjects, uniform titles, etc., used as headings in a file of bibliographic records are consistently applied and maintained. Includes the file of authority records containing the authoritative forms with appropriate references and, for a file of mechanism whereby all records can be updated automatically to maintain consistency with authority file.
- * A L A 図書館情報学辞典, 1988
 典拠コントロール
 書誌レコードのファイル中の標目として用いられる名称、主題、統一タイトルなどの典拠形が一貫して用いられ、維持されるようにするための方法。必要な参照を備えた典拠形を収めた典拠記録のファイルと、機械可読レコードのファイル(データベース)においては、典拠ファイルとの整合性を保つために、すべてのレコードを自動的に更新できるメカニズムを含む。
- **NACSIS-CATは現在、著者名典拠ファイルと統一書名典拠ファイルを典拠ファイルとして持つ。2つの典拠ファイル間にリンク参照機能はない。

典拠コントロールのアクセスポイントの管理とは

- 現在有効な目録規則によって規定されるアクセスポイントの形の記録
- アクセスポイントの正統性と形の根拠の提供(NOTE)
- 書誌機能のなかで、同じアクセスポイントを持つレコード群の配列(Collocation)
- 標準化された目録レコードの作成
- アクセスポイントの様々な表記形を相互参照として記録

典拠コントロールの対象

- 原則的にはアクセスポイントとするすべての事項が対象として可能。
- 代表的なものとしては、著者、書名、件名、キーワード、分類などがある。

典拠データ作成の方針

- 統一フォーマットの決定
- 適用する目録規則、適用細則、別法の採否等の決定
- 外部情報源の優先順位と使用の手続き
- 相互参照が作成されるべき範囲
- 同じか、類似の名前の取扱方法

NACSIS-CATにおける典拠コントロール

- 典拠ファイルには、著者名典拠ファイルと統一書名典拠ファイルがある。
- 書誌構造リンク
図書書誌レコード間リンクとして、書誌構造リンクがある。書誌構造リンクは、シリーズ、又はセットものにおける各冊の書誌単位と、全体を表す書誌単位のそれぞれについてレコードを作成し、前者（子書誌レコード）から後（親書誌レコード）に対してリンク形成を行うものである。この関係づけは、いわばシリーズ名典拠コントロールに相当する。
- 誌名変遷マップリンク
誌名変遷マップリンクは、逐次刊行物の書誌的記録と、標題の変遷関係のそれぞれについてレコードを作成し（雑誌書誌レコード、誌名変遷マップレコード）、両者の間でリンク形成を行うものである。

以下に、NACSIS-CATにおける典拠コントロールを例として、典拠コントロールの問題を考察していく。取り上げるのは、著者名典拠コントロールと統一書名典拠コントロールである。

著者名典拠コントロール

1. 著者名典拠レコードの作成
 - 1.1 書誌レコードの作成における著者標目の選定に対応して作成。
 - 1.2 他の著者名典拠レコードにおける「からも見よ参照（S A F）」の設定による作成。
2. 著者名典拠レコードの作成単位
 - 2.1 同一著者（個人、団体、会議）に対しては、目録規則において同一個人等に対して複数の形が許容されている場合を除き、1レコードを作成。
 - 2.2 例外
 - 改姓改名した個人は、それぞれを標目として著者名典拠レコードを作成。
 - 団体の内部組織は、それぞれを標目として著者名典拠レコードを作成。
 - 一連の回次を有する同一名称の会議は、会議名を単位として著者名典拠レコードを作成。
3. 著者名典拠レコードの構成と記述規則（資料2）
4. 統一標目形
 - 4.1 統一標目形の構成
統一標目形は名称、付記事項、および名称のヨミからなる。
例 HDNG:山田, △太郎11ヤマダ, △タロウ
HDNG:山田, △太郎 (1965-) 11ヤマダ, △タロウ
HDNG:山田, △太郎 (1965-建築家) 11ヤマダ, △タロウ
 - 4.2 統一標目形の形の決定は、日本名はNCR1987年版、外国名はAACR2における標目の形に関する条項を適用する。
 - 4.3 統一標目形は、一意でなければならない。
 - 4.4 一連の回次を有する同一名称の会議の場合、統一標目形には、回次、開催年、開催地は含めない。これらは、書誌レコードのALフィールドの「その他の情報」に記録する。
例 HDNG:整理技術研究集会11セイリ ギジュツ ケンキュウ シュウカイ
<DA12345678>
AL:整理技術研究集会11セイリ ギジュツ ケンキュウ シュウカイ<DA12345678>

第1回 . . .

5. 目録規則の適用基準

5.1 個人名

5.2 団体名

5.3 ハングルの扱い

6. 他の目録規則による標目の形

統一標目形の形の決定をするときに採用しなかった目録規則に基づく標目形が必要なときは、S A フィールド（から見よ参照）に、「*」を先頭につけて、その標目形を記録する。

7. 統一標目形の表記

NCR1987年版

AACR2

8. 中国語、韓国・朝鮮語で表記される名称 (資料3)

9. から見よ参照 (S F) (資料4)

9.1 統一標目形の別の文字の形

例 AACR2形の統一標目形に対するギリシャ文字、キリル文字、日本語カナ形、中国語漢字形など

9.2 他の目録規則による標目の形（前出）

9.3 団体の統一標目形のから見よ参照

異なるレベルへの参照は作成しない。

10. からも見よ参照 (S A F) (資料5)

○ 目録規則において同一個人に対して複数の形が許容されている場合

○ 団体名の変更によって複数の形が生じる場合

10.1 相互参照先の著者名典拠レコードの統一標目形が表示される

10.2 団体の名称変更したときの参照

統一書名典拠コントロール — 音楽資料を例として —

1. 統一書名典拠ファイルの位置づけ

○ 図書書誌レコードの統一タイトル標目の形を統一し、一元的に管理するためのファイル

○ 統一タイトル標目の形を統一することで、同一「著作」の統一が図れる。

○ 統一タイトル標目以外に、検索が予想される他の形や、関連する他の統一タイトル標目に関する情報を記録する。

2. 統一書名典拠レコードの作成

2.1 図書書誌レコードの作成における統一タイトル標目の選定に対応して作成。

2.2 他の統一書名典拠レコードにおける「からも見よ参照 (S A F) の設定による作成。

2.3 当面、統一書名典拠レコードの作成範囲を、無著者名古典、聖典、及び音楽作品に限定する。

3. 統一書名典拠レコードの作成単位

3.1 同一著作に対しては、原則として、1レコードを作成。

3. 2著作には、聖典の部編を含む。

4. 統一書名典拠レコードの構成と記述規則 (資料6)

5. 統一標目形

5. 1統一標目形の構成

統一標目形は、名称、付記事項、及び名称のヨミからなる。

例 UTL:Bible. O. T. Psalms

5. 2 統一標目形の形の決定は、日本名はNCR1987年版、外国名はAACR2における標目の形に関する条項を適用する。

5. 3 統一標目形は、一意でなければならない。

5. 4統一標目形には、著作の言語、訳、刊年等は含めない。これらは、書誌レコードのUTLフィールドの「その他の情報」に記録する。

例 HGNG:Bible. O. T. Psalms

UTL:Bible. O. T. Psalms <EA00010421> English. Authorized. 1986.

5. 5 音楽作品の統一標目形

音楽作品の統一タイトルは、統一書名典拠により管理する。UTLフィールドを作成する場合、あるいは、統一書名典拠レコードを作成しリンク形成を行う場合、その標目形は次のようになる。

①作曲者名等を有する統一タイトルは、その著者標目のもとの副標目形として書誌レコードのUTLフィールド、統一書名典拠レコードのHDNGフィールドに記録する。

HGNG:Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791 -- Concertos, violin, orchestra,
K. 218, D major

UTL::Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791 -- Concertos, violin, orchestra,
K. 218, D major <EA01234567>

②作曲者名等が不明の統一タイトルは、作品名の直接形を統一標目形とする。

6. 目録規則の適用基準

7. 他の目録規則による標目の形

統一標目形の形の決定をするときに採用しなかった目録規則に基づく標目形が必要なときは、SAフィールド（から見よ参照）に、「*」を先頭につけて、その標目形を記録する。

8. 統一標目形の表記

NCR1987年版

AACR2

9. から見よ参照（SF）（資料7）

9. 1統一標目形の別の文字の形

例 AACR2形の統一標目形に対するギリシャ文字、キリル文字、日本語カナ形、中国語漢字形など

9. 2他の目録規則による標目の形（前出）

10 からも見よ参照（SAF）（資料8）

- 目録規則において複数の形が許容されている場合
- 10.1 相互参照先の統一書名典拠レコードの統一標目形が表示される

11 参照ファイルからの流用入力

参照ファイルからの流用入力によって得られる統一書名標目のうち、統一書名典拠レコードの作成範囲に合致しないものについては、統一書名典拠レコードを作成せず、書誌レコードのVTフィールド（その他の標題）への記録に留める。

12 LC MARC (name authorities) (統一書名)

例 統一書名典拠詳細表示 LC 7/8

>:

```
<JA00048398> REST:n
HDNG:Avesta
SF:Abist
SA:Zend-Abesta
SF:Avist
REM:oo1:n 82164364 ¥005:19840322000000.0¥008:830411n1 acannaab la
ana 111 ¥40: $aDLC$cDLC
```

参考事項

LC MARC (name authorities)のデータの「AACR II形」と「Pre AACR II形」(資料9)